

平成16年度福島県廃棄物実態調査の結果について

平成17年8月3日

生活環境部環境保全領域

現行の福島県廃棄物処理計画は、一般廃棄物と産業廃棄物の排出抑制・減量化及び適正処理を目的に、計画期間を平成14年度から22年度までの9年間とし、また状況に応じた必要な見直しを行うための中間目標年度を平成17年度として、平成13年度に策定しました。

この中間目標年度である平成17年度に見直しを行うため、昨年度に平成15年度の発生量や処理量など、見直しを行うための基礎資料を得るために実態調査を実施しましたが、その結果の概要は次のとおりです。

1 調査の実施内容

- (1) 一般廃棄物は、平成15年度におけるごみの排出状況等について、市町村へのアンケート調査を実施するとともに、既存の資料を活用し集計・分析しました。
- (2) 産業廃棄物は、調査対象業種で従業員数30人以上の事業所を抽出し、アンケート調査を実施し、集計・分析しました。

調査対象事業所数 37,867事業所 抽出数4,025事業所 回収数2,976事業所74%

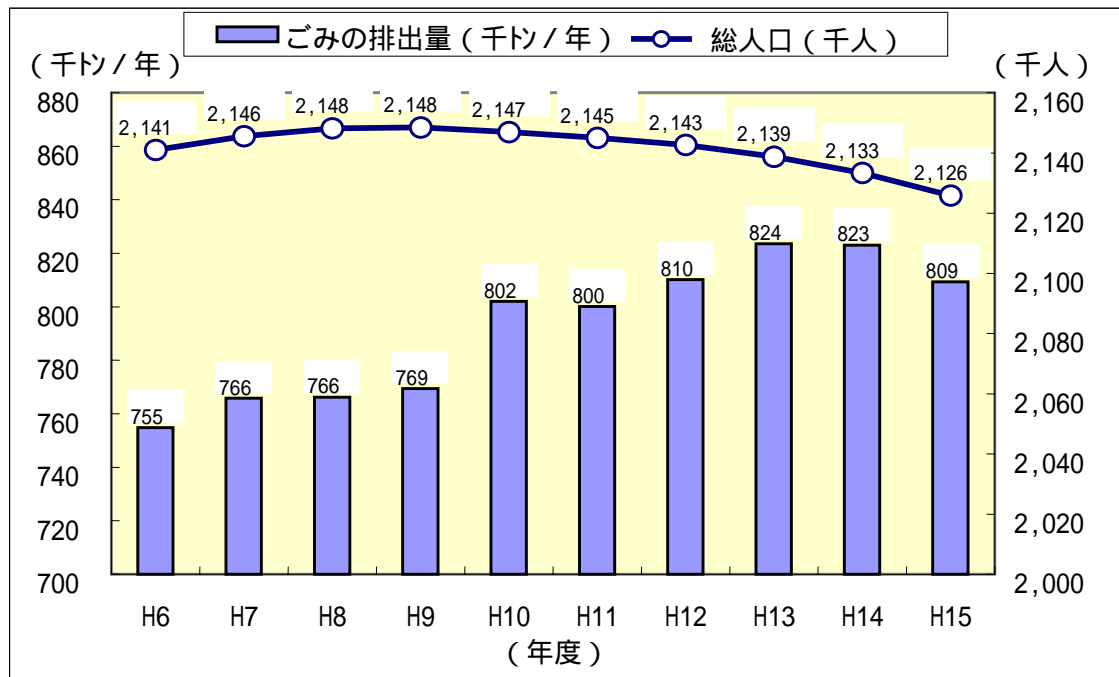
2 平成15年度の廃棄物の発生量及び処理量等の実態

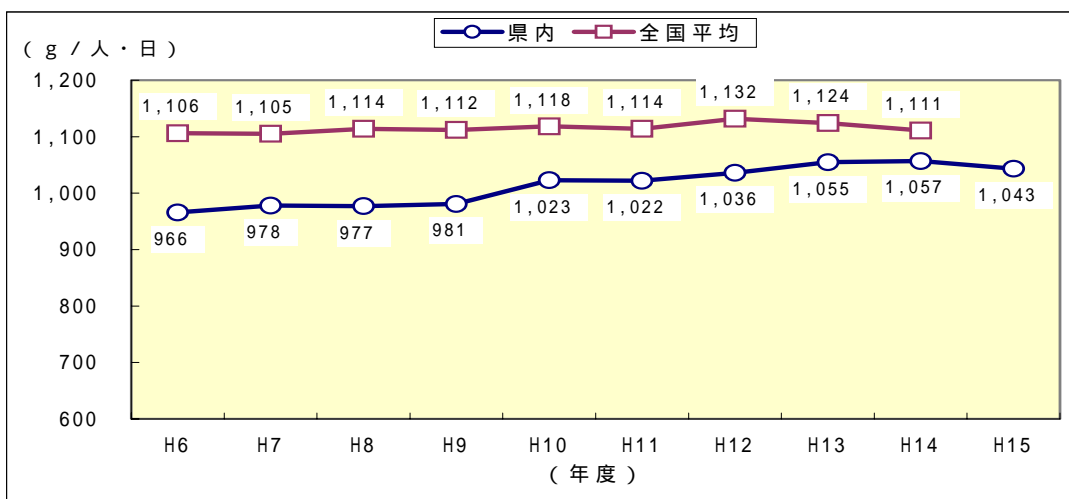
(1) 一般廃棄物

発生の実態

平成15年度は、約809千トンで、平成13年度の824千トンピークに減少してきています。

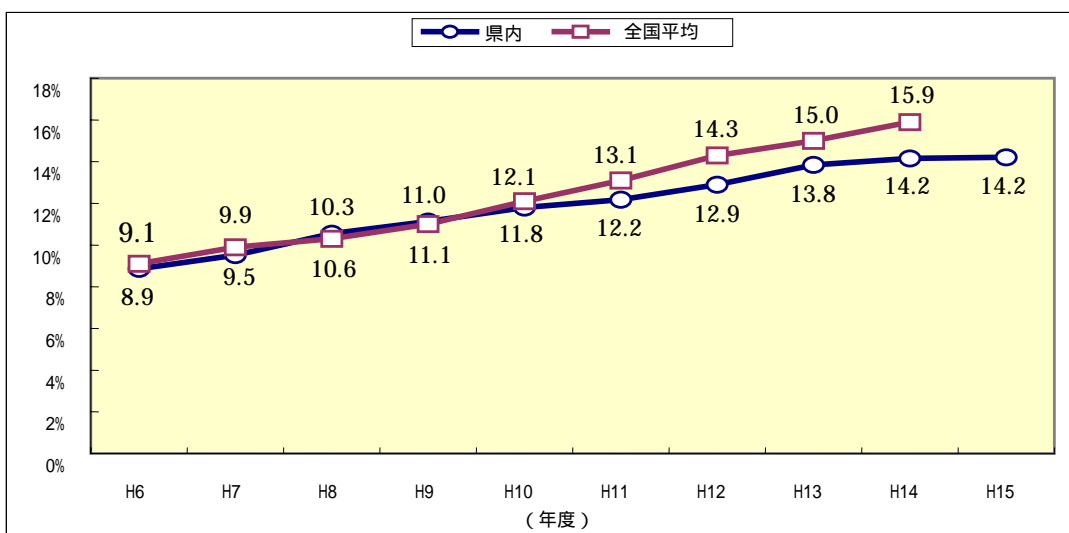
1人1日あたりでは、平成15年度は1,043グラムであり、減少に転じてきています。





リサイクル率の推移

平成12年度の容器包装リサイクル法の完全施行や市町村による資源化施設等の整備、県民のリサイクル意識の高まりなどによって、これまで増加傾向にありましたが、近年は横ばいとなっています。



注)リサイクル率 = $\{(資源化量 + 集団回収量) / (ごみ処理量 + 集団回収量)\} \times 100$
 平成15年度の全国平均は未公表である。
 平成15年度の県内は速報値である。

処理の流れ

平成15年度における県内のごみの排出量は、809,307トン/年です。

1日あたりに換算すると2,218トン/日(+)となり、そのうちごみの収集量(ごみ処理量)は、2,210トン/日()です。

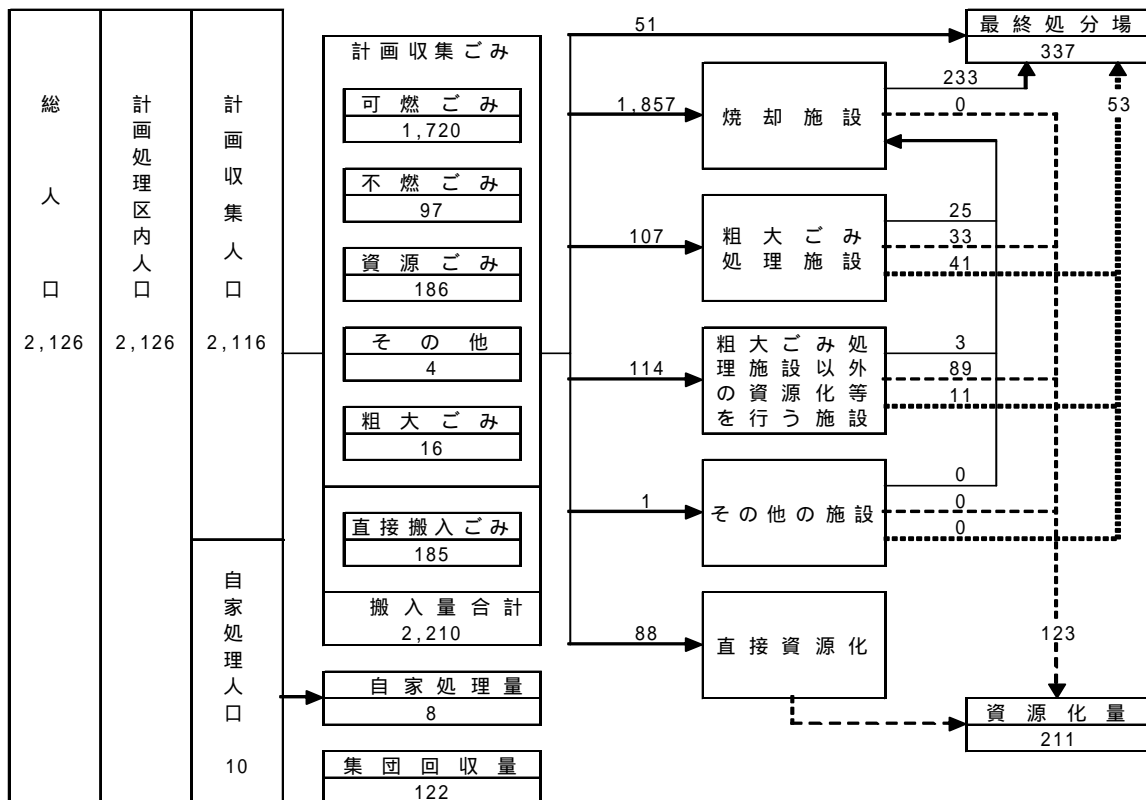
その内訳は、直接埋立量51トン/日()、直接焼却量1,857トン/日()、焼却以外の中間処理量は222トン/日(+ +)となっています。

また、直接または中間処理後に211トン/日(+)が資源化されており、337トン/日(

+ +)が最終処分されています。

処理人口等（単位：千人）

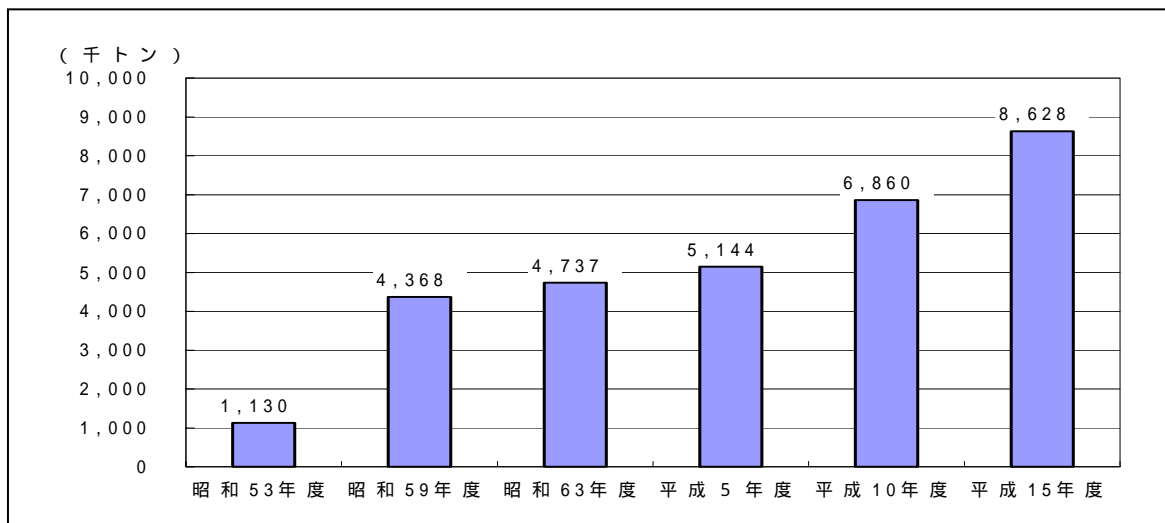
処理系統図（単位：t / 日）



(2) 産業廃棄物

発生の実態

平成 15 年度の不要物等発生量は、8,628千トンであり、平成10年度の1.26倍で、1,768千トン増加しています。



平成 10 年度以降の発生量は、中間処理について全て中間処理前の量を調査対象としている。

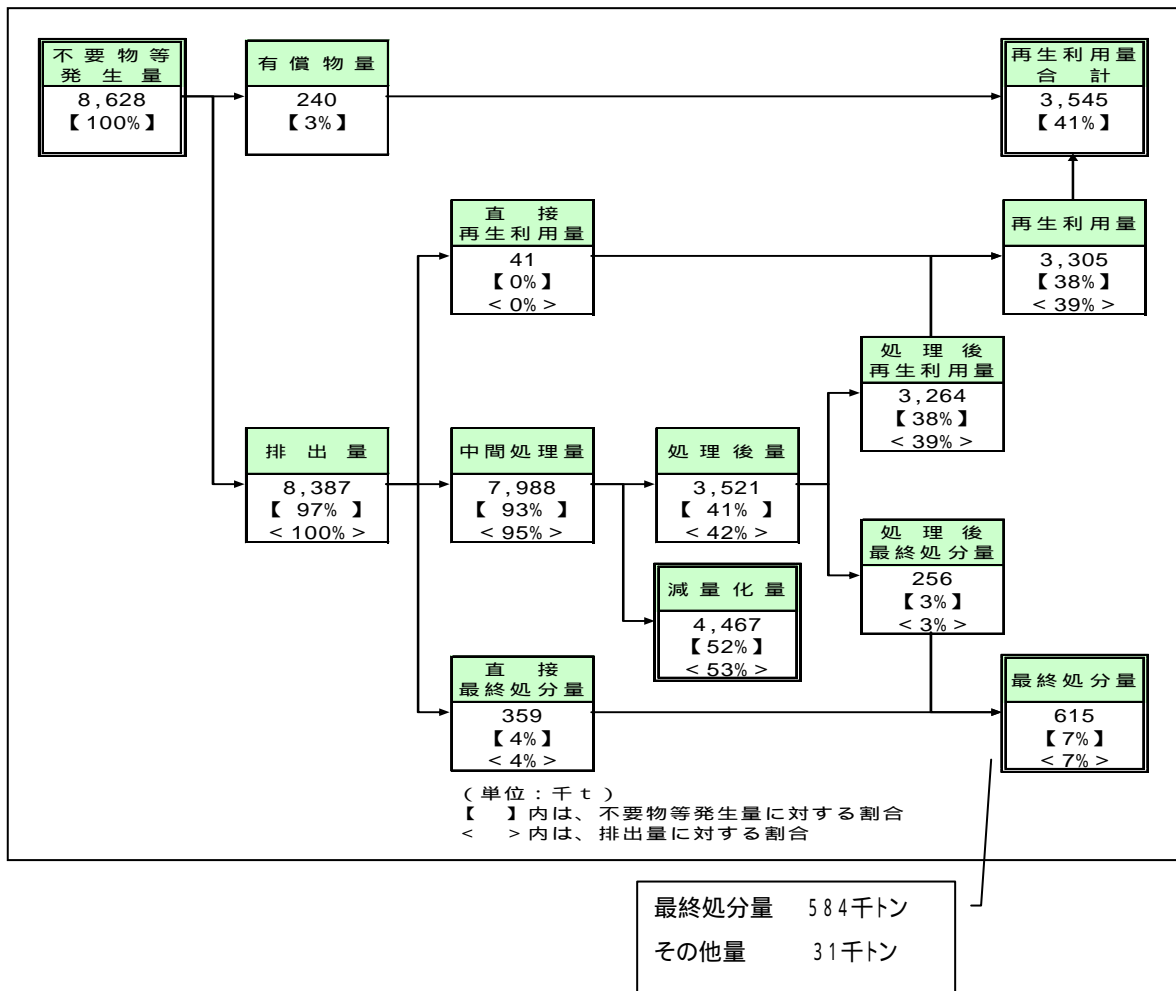
処理の流れ

平成15年度の県内の事業所から排出された不要物等発生量は8,628千トンであり、うち約3%にあたる240千トンが有償物として売却されており、廃棄物処理法の適用を受ける産業廃棄物の排出量は8,387千トンです。

排出量8,387千トンのうち、41千トンが未処理のまま再生利用され、7,988千トンが中間処理されています。中間処理によって4,467千トンが減量化され、3,264千トンが再生利用されています。有償物と未処理のまま再生利用されたものを含めて再生利用量合計は3,545千トンです。

また、中間処理後の残さ256千トンと未処理のまま直接最終処分されている359千トンをあわせて615千トンが最終処分されています。なお、ここでいう最終処分量には、保管中や処理内容が不明確な31千トンが含まれています。

不要物等発生量に対する減量化量の割合は52%、再生利用量合計の割合は41%、最終処分量の割合は7%となっています。



3 処理計画の目標と今回の調査結果との比較

(1) 一般廃棄物

排出量で、目標値より、平成17年度で6%、平成22年度で8%多くなり、再生利用量は、目標値の、平成17年度で70%、平成22年度で52%となり、

最終処分量は、目標値より、平成17年度で16%、平成22年度で45%多くなると予測されます。

(単位：千トン)

年 度	項 目	目 標 値	予 測 値	予測値 - 目標値	予測値 / 目標値
平成 17 年度	ごみの排出量	758	806	48	1.06
	再生利用量	109 (14%)	76 (9%)	- 33	0.70
	中間処理による減量	544 (72%)	607 (75%)	63	1.12
	最終処分量	105 (14%)	122 (15%)	17	1.16
平成 22 年度	ごみの排出量	726	785	59	1.08
	再生利用量	142 (20%)	74 (9%)	- 68	0.52
	中間処理による減量	502 (69%)	592 (75%)	90	1.18
	最終処分量	82 (11%)	119 (15%)	37	1.45

注) 端数処理の関係で合計があわない場合がある。

(2) 産業廃棄物

排出量は、目標値より、平成17年度で22%、平成22年度で18%多くなり

再生利用・減量化量は、目標値より、平成17年度で28%、平成22年度で17%多くなり、

最終処分量は、目標値より、平成17年度で23%減少し、平成22年度で31%多くなると予測されます。

		目 標 値		本調査による予測値		-		/
		(千 t)	排出量に対する割合	(千 t)	排出量に対する割合	(千 t)	(ポイント)	
平成17年度	排 出 量	6,850		8,346		1,496		1.22
	再生利用・減量化量	6,060	88%	7,729	93%	1,669	5	1.28
	再生利用量	2,840	41%	3,172	38%	332	-3	1.12
	減量化量	3,220	47%	4,557	55%	1,337	8	1.42
	最 終 処 分 量	800	12%	617	7%	-183	-5	0.77
平成22年度	排 出 量	7,240		8,514		1,274		1.18
	再生利用・減量化量	6,740	93%	7,857	92%	1,117	-1	1.17
	再生利用量	3,380	47%	2,948	35%	-432	-12	0.87
	減量化量	3,370	47%	4,909	58%	1,539	11	1.46
	最 終 処 分 量	500	7%	657	8%	157	1	1.31

注1) 「再生利用・減量化量」+「最終処分量」=「排出量」となる。

注2) 端数処理の関係で数値の合計が合わない場合がある。

種類別の排出量の目標値との比較では、

平成17年度及び平成22年度で、汚泥及びその他の排出量が目標よりも多くなることが予測されます。特に汚泥は、平成22年度で目標値よりも1,578千トン(45%)多くなると予測されます。(次頁表参照)

(単位：千t)

		目 標 値	本調査による 予 測 値	-	/
平成17年度	汚 泥	3,350	4,759	1,409	1.42
	が れ き 類	1,550	1,647	97	1.06
	鉞 さ い	190	194	4	1.02
	ば い じ ん	1,100	938	-162	0.85
	そ の 他	660	809	149	1.23
平成22年度	汚 泥	3,540	5,118	1,578	1.45
	が れ き 類	1,680	1,451	-229	0.86
	鉞 さ い	190	190	0	1.00
	ば い じ ん	1,180	944	-236	0.80
	そ の 他	660	810	150	1.23